

「ヤング・アダルト・ニューヨーク」

☆☆☆

2016 (平成28) 年7月24日鑑賞<TOHO

シネマズ西宮OS>

監督・脚本：ノア・バームバック

ジョシュ (ドキュメンタリー映画監督、アートスクールの講師) / ベン・スティラー

コーネリア (ジョシュの妻) / ナオミ・ワッツ

ジェイミー (アートスクールの聴講生、ダービーの夫) / アダム・ドライバー

ダービー (アートスクールの聴講生、ジェイミーの妻) / アマンダ・サイフリッド
ブライトバード / チャールズ・グローディン

フレッチャー / アダム・ホロヴィッツ

2014年・アメリカ映画・97分

配給 / キノフィルムズ

◆本作の一方の主人公は、映画監督という仕事上でも、また、子供がいない妻コーネリアとの夫婦関係においても、「中だるみ状態」にある40代の男ジョシュ。他方の主人公は、ジョシュが講師をしているアートスクールの聴講生で、映画監督を目指している20代の野心満々の男ジェイミー。舞台はニューヨークのブルックリンだ。

あるきっかけでジョシュ夫妻が、子供が生まれたばかりのジェイミー夫妻と知り合い、中年カップルが若いカップルの影響を受けていく中で、あるドキュメンタリー映画作りを通して起きる人生ドラマを描いたのが本作だが、ハッキリ言ってかなり退屈……。

◆ジョシュ役を演ずるベン・スティラーの芸達者ぶりは有名だし、一見魅力的な若い男ジェイミーとある日少し異様な雰囲気の中でキスをしてしまうジョシュの妻コーネリアを演ずるナオミ・ワッツも芸達者。また、ジェイミーを演じるアダム・ドライバーも「クセ者」だし、その若い妻ダービーを演ずるアマンダ・サイフリッドも『レ・ミゼラブル』(12年)でみた美人女優だから、キャラクター的には4人ともそれなりのもの。

しかし、40代の男と20代の男が、互いに自由とか芸術、映画を語り合っているものの、どうもその内容が胡散臭そうに思えるうえ、ジョシュの「嫉妬心」が丸見えだから、各シーンの展開を見ていると基本的にイライラ……。しかも、早口でまくしたてるジョシュのセリフには説得力を全然感じないし、それに対するジェイミーの受け答えもあまりピントが合っていないから、会話にも基本的にイライラ……。

◆1作目の映画製作に成功したからといって、必ずしも2作目がうまくいくとは限らないのはよくあること。また、妊娠しなかったり、流産したりして子供に恵まれない夫婦もよくあること。したがって、ジョシュはそれなりに40代の仕事をやり、それなりに40代の夫婦生活を送ればいいのに、彼は、若いジェイミー夫妻に何を求めたの？本作ではそこらあたりがよく分からないだけに、私は本作の意味(良さ)がわからない。

ちなみに、本作ラストでは、ジェイミー夫妻と別れた1年後に、子供に恵まれたジョシュ夫妻が、それまでとは全く違った夫婦の顔を見せてくれるが、こりゃ一体ナニ？本作のチラシには「クスツと笑えて、少しほろ苦くて、最後には胸が熱くなる“迷子の大人たち”の成長物語が誕生した。」と書かれているが、さて……。

201